「居」の語源と家屋概念の広がり

李　　恒*

A Study on the Meaning of Residence through Chinese Ideographs

LI Huan

1．はじめに

居住の本質を問うことは，建築学や住居学のみならず，人間の本質を明らかにしようとする哲学の課題であり，人間と環境との関係を考察する人間環境学の重要課題でもある。特に環境破壊と人間の心の崩壊が顕著となった今日において，「居住」という人間生活の原点に目を向け，居住環境に起因する問題点の解消とそこにおける教育力の向上を図り，「居住福祉」[1]のある社会を構築することがは求められている。

本研究は居住の本質を問う目的で，漢字語源への考察を通して，漢字に含まれている「居住」と「家屋」の意味を明らかにしようとするものである。象形文字から発展してきた漢字概念は一種の記号として，生活，思想，歴史など多くの内容を凝縮する。それに着目した言語学の研究は既に見られている[2]。本研究は，言語学に見られるような，例えば漢字の「成り立ち」についての研究ではなく，一定の成り立ちを有する漢字をひとまとめとして，その漢字群から生活的な意味を読み取ることである。

本研究は，居住を意味する「居」，及び屋根と家屋の意味を有する「宀」冠の付く漢字を対象に，その古来の意味に着目しながら，分類・整理を通して「居住」と「家屋」の潜在的な意味を明らかにすることである。研究方法は歴史から現代までの代表的な辞書[2]を用いて，対象となる漢字を選定し，分類・分析を行うという方法をとった。主に利用されている辞書及び利用の理由は次のとおりである。

①［漢代］『説文解字』[3]。系統的に字形と字源を考究した中国最初の字典とされ，漢字の元の意味を調べるのに役立つ。

②［清代］『康熙字典』[4]。古文を多く掲載しながら文字の変遷を見せ，俗体字も数多く載せているところに特徴がある。これまでの変遷を考察するのに役立つ。

③［現代］『辞源』[5]。長年の歳月を経て編集された辞書で，言葉の源を調べるのに役立つ。

④［現代］『辞海』[6]。総合的な辞書として，豊富な内容が網羅されている。

⑤［現代］『現代漢語字典』[7]。現代漢語を扱う標準的な字典であり，現代に使われている漢字を選び出し，現代的な意味を調べるのに役立つ。

⑥『広辞苑』[8]。日本で使われている漢字と意

*人間環境学部 環境文化学科 助教授
2004年6月15日受付

味を参照するのに使われた。

⑦『新字源』[9]。日本の学者による漢字の解説を参考するのに使われた。

2.「居」の成り立ちと意味

今日,「居住」という意味で使われている「居」は本来「尻(きょ=おる)」と表記されていた。「居」と「尻」は,成り立ちが異なりながらも,両概念は通じていた。「居」は本来「蹲」,つまり「しゃがむ」という意味で,「尻」は「処」,つまり「おる」,または「踞」,つまり「すわる」という意味であった。

「尻」は「尸」と「几」で構成されている。「尸」は「横たわる体」の象形文字から来ており,『説文解字』では「陳」と解釈し,つまり「長くおる」ということであり,『釈名』には,「舒」という解釈もあり,つまり「心地よい」ということである。『説文解字』は「尻」について,「尸」(体)が「几」(腰掛け)を得て「止」(休む)と説明し,また,『孝経』における「仲尼尻」という文を引用して,「閑居」(安らかに住む)と解釈している。

文字の成り立ちからみると,「居住」を意味する「尻」はもともと,腰掛けの前で坐ってもしくは横になってくつろぐ,という生活内容から来た概念で,したがって,そこからは「居住」における「くつろいで休む」ことの重要性を見出すことができる。「尻」に示されている生活の原形は今日においても,例えばコタツの前で寝転がってくつろぐ日本人の日常的生活から見ることができる。

「居」の古字(異体字)には「宀」冠に「古」という表記もあった(図1)。「宀」は屋根の象形文字から来た概念で(後文で詳細に考察する),したがって「居住」の概念は家屋との関連からも捉えられていたことが分かる。また,今日「家屋」を表わす「屋」や「宅」という文字は,古い意味に「居住」の意味もあったことからも,「居住」と「家屋」の関係は分離できないことにあると言える。

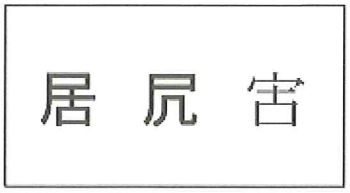


図1 「居」とその古字

図2 「居」から発生した意味

「居」は「居住」という基本的な意味から,「置かれる」,「止まる」,「安心」,「蓄える」などの意味が発生する(図2)。辞書に挙げられている古典の例をいくつか取り上げてみよう。

①「置かれる」意味について

『書』には「居上克明,居下克忠」とあり,つまり地位が上になっても愚昧にならずに,賢明を保ち,地位が下であっても忠誠を守るということである。また,「居安思危」とあり,つまり安全のときでも危険を予測する意味である。

②「止まる」,「静止する」意味について

『易』「繫辞下」には,「為道也屢遷,変動不居」とあり,これは「易」が示す論理は静止せず,しばしば変化することを言っている[10]。

③「安心」の意味について

『康熙字典』によれば,宋代『広韻』には「安」(安心)という解釈がある。『礼記』[11]「王制第五之二」には,「凡居民,量地以制邑,度地以居民,地,邑,民居,必参相得」とある。つまり民を安心させる方法は,土地を計って都市をつくり,敷

地を与えて民を安心させる。しかも土地と都市と民家はバランスを取らなければならないということである。その文の続きとして，「休んでいる土地はなく，遊民はおらず，物（食べ物）事は節度であり，民は皆安心に居住し，職業に楽しみ，上の人を尊重し，学ぶことに熱心する」というような内容がある。民心を安定させることは「居住」を与えることで，これは国を治める者自身が「居」（安心）を得ることでもあるのだ。

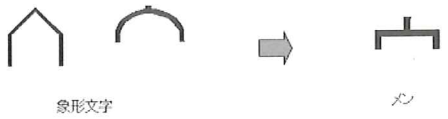
④「蓄える」意味について

『書』「益稷」には，「懋遷有無化居」とあり，つまり貿易が盛んで，在庫はないということである。

これらの「居」から発生した意味は，「居住」にある属性としても理解できる。つまり居住することは安定を得ることで，「安心」が伴い，蓄えながら生活を営むことである。家屋に守られながら安らかに暮らすという居住の意味は，「居」という文字の成り立ちに含まれていたのである。

3．「宀」冠の付く家屋関係の漢字について

「宀」は屋根を意味する象形文字から来ており（図３），それ自体は一つの漢字となり，「メン」という発音である。『説文解字』では「交わる屋根が覆わる大きい家屋」と説明する。『康熙字典』には明代学者田芸衡の説を引用し，「先人は洞窟に住み，野で暮らし，「宮」や「室」はなかった。（順序からいうと）まずは「宀」があって，次に「穴」がある。・・・後の「室」，「家」，「宮」，「宁」の諸制度はみなそこから始まる」とある。この説は推論に過ぎないが，家屋の原形は屋根に意味があり，「宀」という漢字にあることを示している。



「田芸衡曰」古者穴居野処、未有宮室、先有宀、而後有穴。宀当象上阜高凸、其下有冋、可藏身之形。故穴字従此、室、家、宮、宁之制皆因之。

図３　「宀」の由来

次は「宀」冠を有し，家屋と関係のある漢字について考察したい。表１はその漢字の一覧である。『康熙字典』からわかるように，歴史的にその漢字は多岐にわたっているが、ここでは現代まで残された漢字のみ対象とする。『現代漢語字典』から漢字を取り出し，『説文解字』を参考しながら

表１　「宀」冠を有する漢字の一覧と研究対象の選択

対象となる漢字（計 61 字）		対象外の漢字
常用漢字（36 字）	非常用漢字（25 字）	
安　宇　守　宅　完　宏　官　宜	宀　宄　宁　宋　宝　宛　宕	它　字　宎　牢　案
実［實］　宗　宙　定　宝［寶］　客	宓　宥　成　宦　宦　辰　寀	寅　寃　寔　密　蜜
室　宣　宴　家　害　宮　宰　宵	寇　寓　寘　寐　寞　寥　寤	憲　賽　賓　塞　寨
容　寄　寂　宿　寒　富　寛　寡	寰　寠　寮　寵	褰　謇　蹇　搴　騫
寝［寢］　察　寧［寧］　審　寮		騫　寓
写［寫］		

注：①上の漢字は「宀」を除き、中国の「現代漢語字典」と日本の「広辞苑」をもとに選んだ。
②文字の成り立ちは「宀」と関係なく、或いは別の文字の異体字である場合は「対象外の漢字」とした。
③[]括弧内の漢字は現代字に対応する昔の書き方（繁体字）である。

表2　家屋・建築空間に関わる漢字

	意　味	備　考
宀 ﾒﾝ／mian2	もと、高い屋根に覆われた家屋の形にかたどり、家屋の意を表す。これを部首にして、家屋の種類・部分・状態、屋内に置くなどの意を示す字ができる。 屋根。家。四方に深く屋根をたれた家。	「説文」交覆深屋也。 「田芸衡曰」古者穴居野処、未有宮室、先有宀、而後有穴。宀当象上阜高凸、其下有囟、可藏身之形。故穴字従此、室家宮宁之制皆因之。
宁 ﾁｮ／zhu4	古代の宮室において屏と門との間をさす。帝王が政務を聞く時の立った場所。	「爾雅釈宮」門屏之間謂之宁。 「礼曲礼」天子当宁而立つ。
宇 ｳ／yu3	もと、家の四方のすみ、ひいて覆うところの意を表す。 のき。屋根。家。天地四方。無限の空間。	「説文」屋辺也。 「易繫辞」上棟下宇以避風雨。
宅 ﾀｸ／zhai2	もと、身を寄せて落ち着く所の意を表わす。 いえ、すまい、やしき。いどころ、身をおく所。いる、居住する。官を務める。安定。墓地。…	「説文」所托也。 「爾雅釈言」居也。 「釈名」宅択也。択吉処而営之也。
宋 ｿｳ／song4	『説文解字』に「居」と解説され、現在は春秋十二列国の１つである国名或いは王朝名しか意味しない。	「説文」居也。徐曰：木所以成室以居人也。
宝 ｼｭ／zhu3	みたまやの位牌を納める石室の意味。	「説文」宗廟宝祏。
宬 ｾｲ／cheng2	蔵書室。後に皇室に帝王の直筆、実録、重要書籍などを置く場所を指す。明代には「皇史宬」があった。	「説文」屋所受容也。 「字匯補」蔵書之室也。
宗 ｼｭｳ／zong1	先祖のみたまや。祖先。同姓の族。…	「説文」尊祖廟也。
宙 ﾁｭｳ／zhou4	もと、屋根の内側のふくらみを表わす。 のきとむな木との間。天地の間の広がり。空間。時間。	「説文」舟車所極覆也。下覆為宇、上尊為宙。 「玉篇」居也。徐鉉曰：凡天地之居万物、猶居室之遷貿而不覚。
宕 ﾄｳ／dang4	岩屋、洞窟。	「説文」過也。一曰洞屋。
室 ｼﾂ／shi4	もと、行き止まりの奥部屋の意を表わす。 へや。奥の部屋。家。妻。墓穴。…	「説文」實也。従宀従至、至所止也。 「易繫辞」上古穴居野処、後世聖人易之以宮室。
家 ｶ／jia1	いえ。うち。住まい。家を構える。夫。…	「説文」居也。 「爾雅釈宮」戸牖之間曰扆、其内謂之家。
宮 ｷｭｳ／gong1	みや。大きな建物。いえ。天子のいるところ。…	「説文」室也。 「釈名」宮穹也。屋見垣上穹隆然也。
宸 ｼﾝ／chen2	奥の部屋。天子の住まい。「宸居」。	「説文」屋宇也。「賈逵曰」室之奥者。後人称帝居曰宸。「増韻」帝居北宸宮、故従宀従辰。亦曰楓宸。帝居高広、惟楓修大可構也。
寓 ｸﾞｳ／yu4	よる。よせる。かりずまい。やど。	「説文」寄也。 「孟子」無寓人於我室。
宿 su4／シュク	もと、家の中の席につく、「やどる」意。 やどる、とまる。やど。…	「説文」止也。「玉篇」夜止也。住也。 「増韻」安也。守也。
寮 ﾘｮｳ／liao2	もと、政務をとりはかる役所の意。 つかさ、役所。僧舎。同僚。…	「正字通」寮、小窓也。楊慎曰、古人謂同官為寮、亦指斎署同窓為義。
寰 ｶﾝ／huan2	宮殿の周囲のかきね。天子直轄の領地。天下、世界。治める土地全体。	「説文」王者封畿内県也。 「正字通」宮周垣也。
寝（寢） ｼﾝ／qin3	もと、清浄な神殿を表わしたが、古代貴人の病者は神室に寝たことから、寝屋の意味に転じる。 みたまや、廟の奥の部屋。正室。寝る。…	「説文」臥也。 「爾雅釈宮」無東西廂有室曰寝。

成り立ちを分析し，家屋と関係のないものを取り除き，研究対象を絞り込んだ。表における「常用漢字」と「非常用漢字」の分け方は見やすくするためである。

研究対象となる漢字は名詞，動詞，形容詞の3種類に分類することができる。次はそれぞれについて考察する。

（1）名詞対象について

名詞は，家屋と建築を表わすものと人間を表わすものの2種類に分けることができる（図4）。表2は家屋と建築を表わすもの，表3は居住生活を表わすもの，表4は人間を表わすものである。

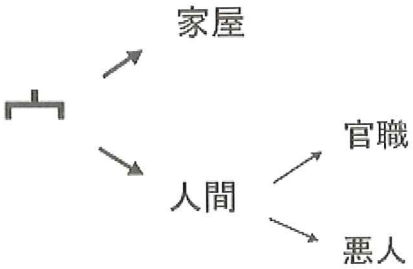


図4　名詞の種類

家屋や建築に関わる漢字は，その表わしている意味によっていくつかのグループに分類することができる（図5）。そこで，例えば「寰」は天子

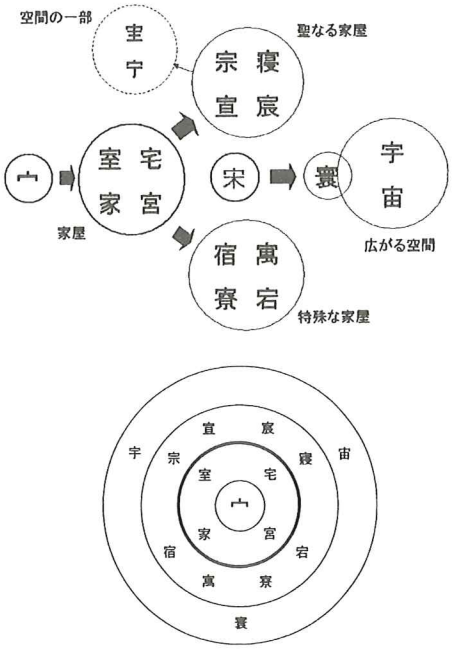


図5　家屋・建築関係の漢字概念と相互関係

表3　人間に関する漢字

		意　味	備考
官職	守 ｼｭ／shou3	もと、家にあって事をつかさどる、ひいて「まもる」意を表わす。つかさどる。まもる。官名の一つ。…	「説文」守官也。寺府之事者従寸、寸法度也。
	官 ｶﾝ／guan1	役所、官庁。やくめ、つとめ。役人、官吏。	「説文」吏事君也。 「玉篇」宦也。
	宦 ｶﾝ／huan4	つかえる。まなぶ。官職を求める。つかさ。…	「説文」仕也。
	宰 ｻｲ／zai3	もと、宮中の饗宴をつかさどる者、ひいて官吏の長をいう。つかさどる、主宰。つかさ、官吏。料理の世話をする、またはその人。	「説文」官称。罪人在屋下執事者。 「玉篇」治也。「増韻」主也。
	寀 ｻｲ／cai3	古代の官の名前。	「説文」同地為寀。 「爾雅釈詁」寀、寮官也。
	寮 ﾘｮｳ／liao2	もと、政務をとりはかる役所の意。 つかさ、役所。僧舎。同僚。…	「正字通」寮、小窓也。楊慎曰、古人謂同官為寮、亦指斎署同窓為義。
悪人	宄 ｷ／gui3	よこしま。「姦宄」	「説文」姦也。外為盗内為宄。 「書舜典」寇賊姦宄汝作士。
	寇 ｺｳ／kou4	もと、他人の家に押し入って、人を打つ様により、他人に大害を加える意を表わす。害を加える。損なう。	「説文」暴也。従攴従完，当其完聚而寇之也。 「増韻」仇也。賊也。

表4　居住することに関する漢字

	意味	備考
宅 ﾀｸ／zhai2	もと、身を寄せて落ち着く所の意を表わす。 いえ、すまい、やしき。いどころ、身をおく所。いる、居住する。官を務める。安定。墓地。…	「説文」所托也。 「爾雅釈言」居也。 「釈名」宅択也。択吉処而営之也。
寓 ｸﾞｳ／yu4	よる。よせる。かりずまい。やど。	「説文」寄也。 「孟子」無寓人於我室。
宿 su4／シュク	もと、家の中の席につく、「やどる」意。 やどる、とまる。やど。…	「説文」止也。「玉篇」夜止也。住也。 「増韻」安也。守也。
客 ｷｬｸ／ke4	身を寄せる。よりつく。訪問者…	「説文」寄也。 「広韻」賓客。
窘 ｸﾝ／qun2	群居の意味。ひいて集まる意味を表わす。	「説文」群居也。
寄 ｷ／ji4	もと、屋下に身を寄せる意。 よる。よせる。…	「説文」托也。 「増韻」寓也。
寝（寢） ｼﾝ／qin3	もと、清浄な神殿を表わしたが、古代貴人の病者は神室に寝たことから、寝屋の意味に転じる。 みたまや、廟の奥の部屋。正室。寝る。…	「説文」臥也。 「爾雅釈宮」無東西廂有室曰寝。
寐 ﾋﾞ／mei4	ねる、ねむる。（対「寤」）	「説文」臥也。 「広韻」寝也。息也。
寤 ｺﾞ／wu4	覚める、目覚める（対「寐」）。さとる（通「悟」）。さかさ…	「説文」寐覚而有信曰寤。
寤 ｹﾞｲ／yi4	寝言。	「説文」瞑言也。 「徐鉉曰」今人謂夢中有言為寤語。

表5　その他の動詞

	意味	備考
守 ｼｭ／shou3	もと、家にあって事をつかさどる、ひいて「まもる」意を表わす。つかさどる。まもる。官名の一つ。…	「説文」守官也。寺府之事者従寸、寸法度也。 「玉篇」収也。視也。護也。
寘 ｼ／zhi4	置く。	「説文」置也。 「正韻」納之也。猶言安著也。
寫 ｼｬ／xie3	もと、外から家の中に物を移しおろす、転じて物をうつしとる意を表わす。おろす。のぞく。注ぐ。うつす。	「説文」置物也。「広韻」除也。程也。 「増韻」傾也。尽也。輸也。
察 ｻ／cha2	しる。みる、観察。あきらかに。考える、推察。	「説文」覆審也。 「徐鉉曰」祭祀必質明、明察也、故従祭。
審（寀） ｼﾝ／shen3	もと、覆われているものを分けて明らかにする、細かに知る意を表わす。明らかにする。つつしむ。詳しい。	「説文」悉也。 「徐鉉曰」宀覆也、采別也。包覆而深別之也。
寵 ﾁｮｳ／chong3	もと、竜神をまつる宮殿の意味で、ひいて、「めぐみ」の意を表わす。たっとい。ほまれ。愛する。気に入る。	「説文」尊居也。一曰愛也。恩也。 「易師卦」承天寵也。

の領地を意味し，「宇宙」は無限に広がる世界を意味するようなことでも，「宀」が冠する言葉によるもので，家屋の概念と関係をもっていることは興味深い。

（2）動詞対象について

動詞は，居住に関する概念，つまり「居住すること」もしくは「寝ること」に関するものが多く，ほかには，例えば「まもること」や「整理すること」や，「察すること」などに関するものがある（図6，表4，表5）。

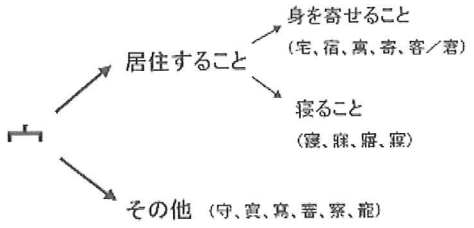


図6　動詞の種類

「居住すること」に関する漢字の中に，「床」を意味する「爿」の部分が付いているものは，全て睡眠と関係のある概念である。その他の動詞はいくつかの違った意味に分かれるが，共に「安心すること」が内在し，つまり，その行為を行ったことによって安心が得られるということに注目すべきである。これはやはり家屋の下にあること，居住生活に関係のあることだからと考えられる。

（3）形容詞対象について

形容詞は良い意味を示すものと，中間的な意味を示すものと，悪い意味を示すものの3種類に分けることができる（図7）。良い意味を示すものには，例えば安らかさや豊かさや広さなどを意味するものがあり，中間的なものには，例えば静かさなどを意味するものがあり，悪い意味を示すものには，例えば病害や貧困を示すようなものがある（表6～表10）。

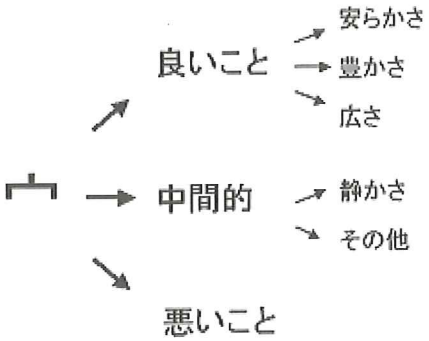


図7　形容詞の種類

表6　安らかさを示す動詞

	意味	備考
安 ｱﾝ／an1	家の中に女が坐っている様により、静かに止まる、ひいて安らかを表わす。安んじる。安心する。満足する。…	「説文」静也。従女在宀下。 「広韻」徐也。止也。
宜・宜 ｷﾞ／yi2	宀の中に肉の供え物をささげた様により、祈る、転じて物事のさしさわりのない意を表わす。よろしい。	「説文」所安也。「増韻」適理也。 「詩周南」宜其室家。
定 ﾃｲ／ding4	もと、屋内に物を整えておく、ひいて「さだめる」意を表わす。定める。整えておく。安定。決める。治める…	「説文」安也。従宀従正。 「増韻」静也。正也。凝也。決也。
宓 ﾋﾞ／mi4	安らか。ひそか。静か。とどまる。	「説文」安也。 「玉篇」止也。静也。黙也。
宴 ｴﾝ／yan4	もと、屋内で安んじる意味で、転じて、酒盛りして「たのしむ」意を表わす。くつろぐ。たのしむ。酒宴。	「説文」安也。 「爾雅釈訓」宴宴居息也。
寧（寧） ﾈｲ／ning2	やすんじる、安らかにする。やすい。おだやか、無事である。…	「説文」安也。従宀心在皿上、人之飲食器所以安人。

表7　豊かさを示す漢字

	意味	備考
実（實） ｼﾞｯ／shi2	もと、家の中に財宝が満ちる意味で、ひいて「みちる」、転じて、「みのる」意を表わす。みちる、ものがいっぱいある。とむ。みのる。財。…	「説文」富也。貫貨貝也。 「孟子」充実之謂美、充実而有光輝之謂大。
宝（寶） ﾎｳ／bao3	もと、玉などを大切に家にしまっておく意味で、ひいて、財宝の意を表わす。たから。金、銀、珠玉などの類。	「説文」珍也。従宀従王（玉）従貝。 「易繫辞」聖人之大宝曰位。
富 ﾌ／fu4	もと、家に財が満ちる意味である。とむ。豊か。富ます。とみ。…	「説文」備也。一曰厚也。 「易繫辞」富有之謂大業。
完 ｶﾝ／wan2	もと、屋根をぐるりと巡らす、転じて、欠けるところがない、「まったい」の意を用いる。完全、出来上がっている、完了。しっかりと守る、安全にする。成し遂げる。	「説文」全也。従宀元声。古文以為寛字。 「荘子」不以物挫志之謂完。「玉篇」保守也。

表8　広さを示す漢字

	意味	備考
宏 ｺｳ／hong2	もと、広い家屋の響きの意味で、ひいて、「ひろい」意を表わす。ひろい、大きい。	「説文」屋深響也。 「玉篇」大也。「増韻」広也。
宥 ﾕｳ／you4	ゆるい。ゆるす。なだめる。	「説文」寛也。
寛 ｶﾝ／kuan1	もと、広い家の意味で、ひいて、「ひろい」意を表わす。ひろい。ゆるやか。ゆるやかにする。くつろぐ。…	「説文」屋寛大也。 「易乾卦」寛以居之。
容 ﾖｳ／rong2	いれる。ゆるす。なかみ。	「説文」盛也、従宀従谷。 「徐鉉曰」屋与谷皆所以盛受也。

表9　静かさを示す漢字とその他

	意味	備考
寂 ｼﾞｬｸ／ji4	もと、家の中が人声もなくひっそりしている意味で、ひいて、「さびしい」意を表わす。しずか。さびしい。…	「説文」無人声也。 「広韻」静也。安也。
寞 ﾊﾞｸ／mo4	寂しい。しずか。ひっそりとしている様。	「説文」寂寞無声也。
寥 ﾘｮｳ／liao2	むなしい。空虚。さびしい。しずか。奥深くて広い。ひいて大空の意。	「説文」空虚也。 「玉篇」寂也。廓也。
宵 ｼｮｳ／xiao1	もと、屋内が暗くなった夕方の意を表わす。日が暮れた時刻。よる。似る。	「説文」夜也。宀下冥也。
宛 ｴﾝ／wan3	もと、屋根が半球形をなすことが原義であったと考えられる。まがる。丘。…	「説文」屈草自覆也。

表10　病気や貧困を示す漢字

	意味	備考
害 ｶﾞｲ／hai4	そこなう。さまたげる。いむ。わざわい。	「説文」傷也。従宀従口。口言従家起也。 「徐曰」禍当起於家生於忽微。故害従宀。
寒 ｶﾝ／han2	もと、屋内で身をかがめ草のしとねにくるまっている様を表わす。こごえる。さむい。さむさ。時節	「説文」凍也。従人在宀下、以艸薦覆之。 「易繫辞」日月運行一寒一暑。
寡 ｶ／gua3	すくない。ひとり。やもめ。弱い。王侯の自称。	「説文」少也。従宀従頒。頒、分賦也。故為少。「爾雅釈詁」罕也。
婁 ﾛｳ／lou2	まずしい。やつれる。やせおとろえる。「貧婁」	「説文」無礼居也。 「爾雅釈言」貧也。謂貧陋也。

「安らかさ」を示す漢字の中に，例えば「宜」と「宴」は現在，意味が大きく変わっているが，考えてみると，「宜しいこと」も楽しい宴会も「安心」や「安定」を前提としなければならないことである。

「完全」や「完璧」を意味する「完」の概念は分類しにくいが，「豊かさ」を示す概念と見なして表7に入れた。「全」や「璧」は「玉」と関係のある概念である。「完全」であることや「完璧」であることは「宀」（家屋）と「玉」と関係することは意味深く，家屋と玉は他のものよりも重要であることが示されている。

広さを示す概念が「宀」（家屋）と関係するということは，人間のつくったものの中に家屋より広いものは少なかったからと考えられよう。

静かさを示すものは，家屋に見られた現象からできた概念だと考えられるが，これは別の意味で考えると，家屋（家屋の中で得た経験）は物事を判断する基準や尺度になっていたということである。

「寒」は人が家屋の中に身をかがめ，草のしとねにくるまっている象形文字からきている（図7）。寒さに対して，「家屋」からの守りはもっとも大事だということである。

「害」は家から始まる傷病の意味であった。『説文解字』の解釈について，宋代の徐鉉は補足説明を加え，「災いは家から始まり，油断によって生じ，だから宀に従う」としている。家屋から由来する傷病は油断できず，一大事であった。このことは，例えば風水陽宅における「却病」の理論（家屋による病気を避けること）からも，家屋の健康への影響を重視する視点が見られる。「災」は「水」と「火」と関係する概念で，「災害」という言葉からみると，「水」と「火」と「家屋」から由来する災いや傷病は油断できないこととされていた。

形容詞の漢字における諸関係を図8のように示している。図の左側は良い意味であり，家屋に求められる性格でもあると考えられる。図の右下は負の側面で，避けたいことである。

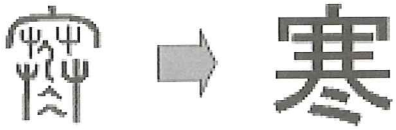


図7　「寒」の由来

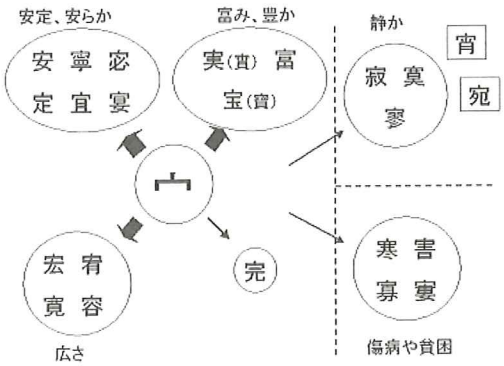


図8　形容詞の漢字にみられる諸関係

4．おわりに

上の考察を通して，安らかに暮らすという「居住」の意味は，「居」という漢字の語源に既に含まれていることがわかる。居住生活を支える家屋については，「宀」冠が有する漢字概念を通して，その意味を見出すことができた。そこで，「宀」冠を有する漢字概念は様々な意味を見せながらも，安心，安定，豊かさなどの意味合いが多く含まれていることがわかる。これはやはり「安心居住」は居住の本質にあることを示している。

「安心居住」は考え方として常識のようであるが，社会現実として解決済みのことではない。「居住不安」は依然として社会に多く存在し，他の社会問題を引き起こす要因にもなり，様々な方面からの研究と改善が求められている。

注

（1）「居住福祉」を論じるものとして次の著作は詳しい。
早川和男・岡本祥浩著『居住福祉の論理』東海大学出版会1997年。
早川和男著『居住福祉』岩波新書1997年。

（2）例えば藤堂明保著『漢字と文化』徳間書店1993年

（3）〔漢〕許慎著『説文解字』中華書局1995年。

（4）〔清〕張玉書他編『康熙字典』広州出版社1995年。

（5）辞源修訂組編『辞源』商務印書舘1988年。

（6）辞海編集委員会編『辞海』上海辞書出版会1989年。

（7）中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編『現代漢語詞典』商務印書舘1995年。

（8）新村出『広辞苑』（第4版）岩波書店1997年。

（9）小川環樹他編『新字源』角川書店昭和55年。

（10）〔明〕朱熹注『四書五経』中国書店1985年。
黄寿祺他著『周易訳注』上海古籍出版社2002年。

（11）孫希旦著『礼記集解』中華書局1989年